



令和6～7年度

令和6年10月～令和7年9月

学校教育目標

かしこく やさしく たくましく
(学び合い 助け合い きたえ合い)

豊かな学びをはぐくむ学力向上プラン全体計画

和光市立下新倉小



児童の実態

○基礎的・基本的な知識や技能が少しずつ身につけている。落ち着いた学習する習慣が身につけている児童が多い。
○得られた知識や技能を他に活用する力は弱い。また、順序立てて考えたり、理由や根拠を含めて説明したりすることやグラフなどの資料から読み取って答えたりする問題に課題がある。
○学力テストの結果においては、少しずつ成果を上げている。伸び率は県の平均、または平均以上と高いが、個人差が大きく確かな学力の育成が必要である。

本校の課題と改善策

【課題】

○日々の授業改善に努めたり、家庭学習の習慣化を図ったりしながら、学力の基礎となる語彙力・読解力・計算技能の着実な向上を図る。
○既習事項を生かし、課題のよりよい解決を行うための思考力・判断力・表現力を育成する。

【改善策】

○校内研修を通して、授業改善を推進し、教職員の授業力を高める。
○チームティーチング、習熟度別学習、放課後算数教室等を利用した個別指導を実施する。
○積極的なICT機器の活用し、個別最適な学びを進める。
○家庭と連携を深め、自主的な家庭学習の習慣化を図る。
○分館との連携を取り入れ、図書や新聞を活用し、語彙力や読解力を高める。



課題改善のPDCAサイクル

○各教科で育成する資質・能力の把握
○実態分析に基づいた課題解決プランの作成



課題改善のPDCAサイクル

○各教科における学習指導の充実
○校内研修の充実による授業力の向上
○パワーアップタイム、チャレンジタイムによる基礎・基本の定着、思考力の育成
○少人数指導の充実
○ICT機器の効果的な活用



課題改善のPDCAサイクル

○3月：年間指導計画への位置づけ
○4,5月：県及び全国学力・学習状況調査の実施
○9月：上記調査結果の分析、新たな学力向上プラン策定



課題改善のPDCAサイクル

○指導と評価の一体化
○日常的な小テスト、単元テストの実施
○授業における形成的評価の工夫
○学力調査等の結果の分析
○学校評価の活用 成果と課題の明確化

教科の指導の重点

国語：文章を読み取り、句や構造を正確に理解できる能力を育成すると共に、自分の伝えたい内容を適切に表現できることを目指し、思考力・想像力・言語感覚を養う。
社会：我が国の国土と歴史への理解と愛情を育て、社会生活のしくみを知ると共に、公民的な資質の基礎を養う。
算数：基礎的・基本的な計算技能の習得を図り、計算手順、公式の活用、量の概念習得、表やグラフの理解が円滑に行える能力を育成する。
理科：見通しをもって観察や実験を行い、問題解決の能力と科学的な見方や考え方を養う。
生活：自分と身近な人々・社会・自然との関わりに関心をもち、体験を中心に自立の基礎を養う。
音楽：表現や鑑賞の活動を通して、音楽を愛する心情と感性を育て、音楽活動の基礎的能力と情操を養う。
図工：表現や鑑賞の活動を通して、作る喜びや造形的な創造活動の基礎を育み、情操を養う。
家庭：日常生活の衣食住に必要な知識と技能を身に付け、家族の一員として生活を工夫する意識と態度を育てる。
体育：適切な運動経験と健康や安全についての理解を通して、基礎的な体力を充実させると共に、運動に親しむ資質や能力を育てる。
外国語：外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育てる。

領域等の指導の重点

情報教育：児童用タブレットやデジタル教科書、デジタルドリル等を生かした学習形態を工夫し、個別最適な学びを推進する。
外国語活動：外国語にふれ体験する活動を通して、コミュニケーション能力の素地を培う。
総合的な学習の時間：横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見つけて学び、考え、判断し、よりよく問題を解決する資質を育てる。
道徳：学校の教育活動全体を通じて、道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度を養う。また、各教科・総合的な学習の時間・特別活動などにおける道徳教育と密接な関連を図り、道徳の実践力を育成する。
特別活動：望ましい集団活動を通して心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員として、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。

主体的な学び	対話的な学び	深い学び
興味や関心を高める	互いの考えを比較する	思考して問い続ける
見通しを持つ	多様な情報を収集する	知識・技能を習得する
自分と結び付ける	思考を表現に置き換える	知識・技能を活用する
粘り強く取り組む	多様な手段で説明する	自分の思いや考えと結び付ける
振り返って次へつなげる	先哲の考え方を手掛かりとする	知識や技能を概念化する
	共に考えを創り上げる	自分の考えを形成する
	協働して課題解決する	新たなものを創り上げる